様式第１号（閲覧規程第２条）

平成３０年３月３１日

宮古市議会議長　前　川　昌　登　　様

宮古市議会議員　　白　石　雅　一

平成２９年度宮古市議会政務活動費収支報告書

宮古市議会政務活動費の交付に関する条例第５条の規定により、平成２９年度の政務活動費の収支を別紙のとおり提出します。

宮古市議会
30. 3. 31
第　　号
収受

別紙

1　収入

政務活動費　　１５０，０００円

2　支出

（単位：円）

科　目	金　額	備　考
研究研修費	―	
調査旅費	―	
資料作成費	―	
資料購入費	８，４００	購読料（社会新報　2017.4 月～2018.3 月分）
広報費	１４８，０００	印刷代（白石まさかず活動報告書）
広聴費	―	
その他の経費	―	
合計	１５６，４００	

注：備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

3　残額　　―　円

白石　雅一

宮古市議会政務活動費支払明細書

項目	内容	金額	摘要
資料購入費	（1）購読料（社会新報　2017.4月～2018.3月分）	8,400 円	700円×12
	計	8,400 円	
広　報　費	（1）印刷代（白石まさかず活動報告書）	148,000 円	
	計	148,000 円	
合　　計		156,400 円	

項 目	資料購入費

（1）購読料（社会新報　2017.4月～2018.3月分）

領収書等貼付欄

社　会　新　報

No.

領　収　証

白石雅一　様

ご購読ありがとうございます

¥8,400－

社会新報	17.4～18.3 月分	¥8,400－
月刊社会民主	月分	¥
	月分	¥

上記代金として領収致しました

社会民主党機関紙宣伝局　2018年3月20日

分局名　宮古総分局　[redacted]㊞

項 目	広報費

（1）印刷代（白石まさかず活動報告書）

領収書等貼付欄

領 収 書

No.1156

発行日　2018年3月28日

白石　雅一　様

下記、正に領収いたしました。

金額：　¥148,000

但　白石まさかず活動報告書印刷代5,000部

東屋松風
代表 成田　よしお（成田宣央）
〒027-0038
岩手県宮古市小山田3-7-1
TEL：090-5529-9829

収入印紙
日本政府
20[redacted]

平成29年度

白石まさかず活動報告

・発行日
平成30年3月

・発行者
白石雅一

・発行住所
宮古市津軽石
10-21-2

・電話番号
070-4006-5021

ご挨拶

津軽石、赤前をはじめ、宮古市の皆様、いつも大変お世話になっております。

昨年に引き続き、今年も平成29年度の「白石まさかず活動報告」を発行させて頂く運びとなりました。

私、白石雅一は若輩者ながら平成26年5月より、宮古市議会議員に押し上げて頂き、微力ではございますが、市政運営に関わらせて頂いております。

任期満了が近づいておりますので、今回は今までの活動の総括報告として、あげさせて頂きます。

駄文ではございますが、ご一読頂ければ幸いです。

青年 情熱 可能性

平成29年度の一般質問とその背景 抜粋

平成29年度　6月定例会

▼①幅広い視野での地域おこし協力隊を　答弁・山本市長

問　5月から、地域おこし協力隊の募集が行われているが、地域力の維持・強化をより一層図るため、事業内容について幅広くアイディアを多くの方から募集する取り組みが必要だと思うがどうか。

答　行政と受入地域や団体の考えが一致する、地域力の維持・強化に資する事業について検討し、随時募集を行う。

この質問の背景
地域おこし協力隊は平成21年に始まった制度で、各地で地域のブランド化やプロモーションに成功している事例がある。宮古市ではどのようにこの制度を活用していくのかを問い、地域のために化薬できる人材を募集するつもりがあるのか伺いました。
現在は小国地区に1人、そして平成30年4月からは川井地区に1人配属の予定です。

▼②継続的な子育て支援の政策を　答弁・山本市長

問　宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略で「働きながら子育てしやすいまちづくり」とあり、事業内容が「子育て支援企業の育成支援事業」とあるが、その検討状況はどうか。

答　事業主に対する国の支援制度の周知に努めるとともに、市独自の支援制度の在り方についても検討する。

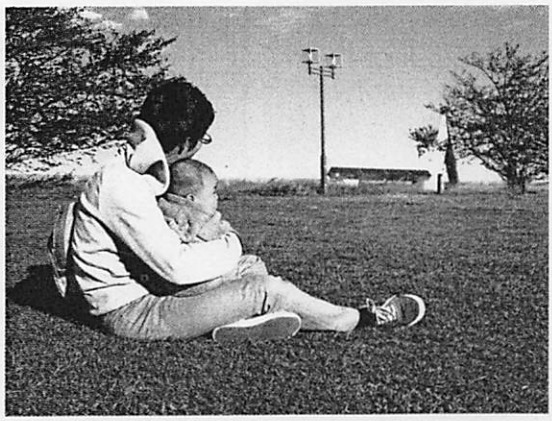
この質問の背景
現在では育児休業を取得した場合、子どもが1歳になるまでの間、雇用保険から賃金月額の67％相当額が6ヶ月間、50％相当額が4ヶ月間支給されます。しかも男性の育児休暇取得促進のため、平成22年からは「パパママ育休プラス」という最長12ヶ月間、67％の給付を受けれる制度も誕生しています。しかしこの新しい制度は認知度が低く、行政も詳しく把握していなかったため、一般質問しました。
現在は「子ども子育て基金」など、新たな支援策がとられています。

▼③災害対策に先進の技術導入を　答弁・山本市長

問　災害救助や物資運搬の面で、ドローンの有用性が検証されている。当市においても、その活用について検討すべきと思うがどうか。

答　各機関等の取り組みを注視しつつ、災害情報の収集のみならず災害救助や運搬等への活用も含め、情報収集に努める。

この質問の背景
各地でドローンを使った災害対策が試験的に行われており、消防庁ではドローンを平成27年度から都道府県の消防学校に配備した。宮古市ではこの先進的な取り組みたいしてどう向き合うのかを伺った。この一般質問の後、数名の消防団員がドローンの研修を消防学校で行いました。



※育休でのんびり子育て

※ドローンを使った様々な取り組み

平成29年度　9月定例会

▼①公益活動の為の新たな拠点施設について　答弁・山本市長

問　松山地区に移転新築を計画している、神林の宮古警察署の既存施設を、ＮＰＯなどの各団体が行う公益活動の拠点として、利活用する必要があると思うがどうか。

答　宮古警察署の施設等の利活用については、市の公共施設として、地域振興に資する多様な活用が考えられる。ご提言内容を含め、一体的に検討を進める。

この質問の背景

震災後、ＮＰＯやボランティアの多くの方々が宮古にいらっしゃいました。その中には復興支援のため、継続して活動を行っている団体もあります。しかし市内にはこれら団体が安価で泊まれ、自由に使える活動拠点が少ないのではないでしょうか。

毎年夏休みに子どもたちへボランティア支援に来てくれる学生方は、現在も体育館で寝泊まりしている実態もあるのです。これらのことから、道場があり、宿泊もできる旧宮古警察署が、新たな公益活動の拠点となるのではないかと思い、質問いたしました。

現在、宮古警察署は松山地区へ移転し、神林の旧宮古警察署はその利活用にと、宮古市が県に対して手を上げています。

▼②三陸沿岸道路完成を見据えた休憩施設整備について　答弁・山本市長

問　宮古南インターチェンジがある金浜付近に、ドライバーらの休憩所となるような施設を設置するべきと思うがどうか。

答　三陸沿岸道路利用者の動向等を注視していく。

この質問の背景

整備が進む三陸沿岸道路だが、この道路にはトイレや休憩場は無く、休憩のためには各所に設置されたＩＣから一度おりなければならない。宮古市の北の玄関口とも言える田老第１ＩＣ予定付近には道の駅たろうを設置しているが、南の玄関口となる宮古南ＩＣ付近には道の駅のような施設はない。自分は南側から来る観光客の増進及び、重茂方面の車利用者のためにも休憩施設が必要ではないかと考え、質問させて頂きました。

平成29年11月に、津軽石―山田間の道路が完成したこともあり、引き続き市に、その必要性を訴えてまいります。

平成29年度　12月定例会

▼①子どもの健康増進に食育を通し対策を　答弁・伊藤教育長

問　平成31年度からの第３次計画策定では、子どもたちの健康増進のため、より食育を通じての対策を家庭とともに行うべきと考えるがどうか。

答　計画策定に当っては子どもたちの健康増進を図るため、小児科医師会をはじめとした関係機関及び保護者の皆さんと意見交換を行うなど連携を密にし、肥満対策を含めた乳幼児期及び学童期の食育指導に取組む。

この質問の背景

宮古市は全国平均に比べ、肥満傾向児の割合が高く、平成28年度では全国平均の15％に対し20％と、岩手県だけ見ても肥満傾向児の割合は高い。肥満対策の一環として、学校では運動を推進しているが、より一層の子どもたちの健康促進のために、幼少期からの長い目でみた食育を通しての対策が必要と考え質問しました。

現在、「第３次宮古市食育推進計画」を策定するところで、アンケート調査の実施をおこなっているところです。

※神林の旧宮古警察署

※金浜宮古南インターチェンジ

平成29年度　3月定例会

▼①平成30年度宮古市経営方針について　答弁・山本市長

問　宮古市経営方針では人口減少、少子高齢化への対応として「中長期的な視点に立ち、今のうちから種をまき、育てる取り組みを進めていく」とあるが、どのような政策ビジョンを持っているのか伺う。

答　雇用の場の確保、希望がかなうような就労環境の充実、更に結婚、出産、子育て環境の充実など総合的に取組む。

具体的には平成30年度から新規学卒者及びU・Iターン者等就業奨励金などの新設による雇用対策事業の拡充、第1次産業の担い手対策などを行う産業振興基金事業の拡充を図る。

また、子ども・子育て幸せ基金事業を実施していく。

問　市長は「安定した仕事を持って、子どもを幸せに育てられるまち」を掲げているが、その実現のためには今後、何が必要になってくると考えるのか伺う。

答　例を上げると、①若者が学んだ知識等を活かせる職種や働く場を増やし、安定した収入が得られる雇用の創出。②若者が働きたくなる農林水産業環境の整備。③仕事と子育て・介護が両立できる就労環境の整備。④若い世代が元気に活動し、交流できるような場や機会の創出。⑤保育施設体制の充実と、地域で子育てを支援する環境整備。⑥地域に根ざしながら、国際的な視野で将来を担っていく人材育成が出来る環境整備。⑦宮古のあらゆる資源を魅力に変え、交流人口の拡大を通じた移住の促進などがある。

この質問の背景

宮古市は震災以降、人口減少、少子高齢化が加速度的に進んでいます。しかもその対策はすぐに成果が出るものではないことが多いのが事実です。産業振興と教育振興を最重要政策として掲げている宮古市が、平成30年度の節目に課題をどのように捉え、どのような政策をおこなっていくのか。その具体的なビジョンを伺いました。

現在、4月からの新規事業に向けて準備を進めています。

▼②平成30年度宮古市教育行政方針について　答弁・伊藤教育長

問　宮古市教育行政方針の（2）学校教育の充実では、『児童生徒の個性を伸ばし、未来の社会を切り開く、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育を推進していく』とあるが、地域の過疎化、少子化が進み児童生徒数が減少しているこの広大な宮古市で、どの様に地域格差無く事業を進めていくのか伺う。

答　社会に開かれた教育過程の実現に重点をおいている。既に各学校で地域社会と連携した様々な教育活動に取り組んでおり、学びの地域格差は無いと考え、それぞれの特色を生かした教育課程の充実を支援する。

また、各学校の代表や希望する児童が参加できる体制を整えてきたが、今後も各々の地域事情に配慮し、学校の枠を超えた広く活動できる場を設定していく。

この質問の背景

震災から7年の歳月が流れました。震災の翌月、4月に生まれた子どもたちが今年小学1年生になります。現在の宮古市は国勢調査によると、10歳から14歳までの人口は平成22年に2756人であったのが、平成27年には2284人と472人の減少です。

これは40人生徒のクラス、12教室分がこの5年間で無くなってしまった事になり、一番減少率が大きかった川井地区では48％の人口減となっています。

この人口減少と過疎化が進む現状の中で、どのように地域隅々まで行き届いた教育を実施していくのか伺いました。

現在は、各学校に学習支援員が出向く、放課後学習支援事業を平成30年度に始めるために準備中です。

※宮古に移住を決めた若者

※子育て世代の交流の場

※子どもたちの職業体験

平成30年度事業ピックアップ

平成30年度予算に基づき、気になった事業を解説します。

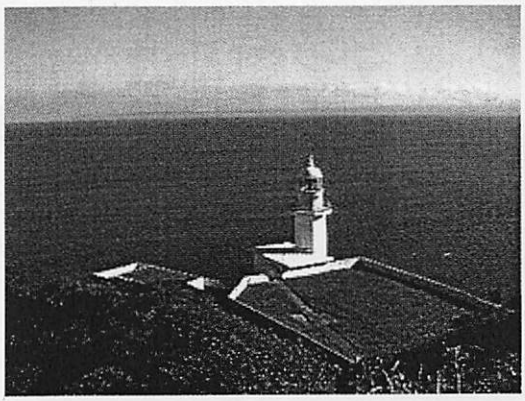
平成30年　6月22日（金）就航
宮古・室蘭フェリー関係

平成30年度はフェリー就航の年ということもあり、様々な事業が行われる予定です。主な事業としては、6月22日の宮古港第1便・出港見送り式、ターミナル壁紙除幕式、宮古・室蘭交流物産展と水素自動車「みらい」の展示・試乗などが行われます。

その他にも宮蘭フェリー就航記念市民号運行補助・宮蘭商談会開催費用補助、中学生の室蘭市交流事業なども予定されており、産業だけでは無く、教育の分野でもその盛り上がりを見せています。

予算額２６１２万１千円

※就航するシルバークィーン



※室蘭市のチキウ岬灯台

浄土ヶ浜に新しい駐車場が出来ます
浄土ヶ浜地区環境整備事業

浄土ヶ浜第四駐車場が新しく、日立浜町地内・元漁民住宅敷地に出来ます。収容台数約１００台を想定しており、これから基本設計が始まります。

この事業により震災で減少していた駐車スペースが解消されるそうです。

予算額３３６万円

廻来船誘致のための新たな政策です
廻来船誘致対策事業

宮古市魚市場の水揚量は昭和59年の約１３．４万トンをピークに平成28年度は過去最低の２．３万トンまで減少しています。しかも魚価単価の上昇、近年の品薄高値相場による買受力の低下など、更なる水揚量減少の悪循環に陥ることが危惧されています。

このことから、今までの廻来船に対しての氷代助成だけではなく、買受人に対しても同様の支援を行い、魚価の安定を図ります。

この事業は一定期間継続して行わないと効果は出ないのではないかとの意見もあり、検証に時間を有します。

予算額１２５０万円

今後の動向が気になります 再生可能エネルギープロジェクト推進事業

復興計画に掲げる「森・川・海の再生可能エネルギープロジェクト」を推進する事業です。しかし、このプロジェクト「地域新電力」「カーシェアリング」などが計画的に進む中、「ブルーチャレンジプロジェクト」については、進捗があまりないのが現状です。

平成28年3月には、株式会社ジャパンブルーエナジーから、宮古市内の電力系統連系が困難であるから発電事業の保留と、安定したバイオマス水素技術の確立のために時間を要することなどの説明があり、この事業の一時休止が示されました。

今後どう技術確立していくのか、様々な視点での注視が必要です。

予算額１６７４万８千円

ついにグランドオープンです 道の駅たろう整備事業

整備を進めていた「道の駅たろう」はほぼ整備を完了し、残すところはあと僅かとなりました。平成30年4月7日にはグランドオープンイベントも予定されており、今後ますますの利用促進が期待されます。

またこの事業とは別ですが、「道の駅たろう」の近くの空き地に有志団体による、ドッグラン整備が進められています。地域の活性化と交流人口の増加が期待されるところです。

予算額２２００万円

被害の拡大が懸念されます 松くい虫侵入・ナラ枯れ対策関連事業

宮古市では平成28年に重茂半島でナラ枯れの発生を確認しており、平成29年5月よりその駆除を開始しています。被害状況としては、平成28年に重茂半島内で４５６本であったのが平成29年には１１６９本となっており、その範囲も真崎・姉ヶ崎・日立浜と範囲を広めています。

今後の対策として、監視体制の強化と被害木の処理、被害拡大の防止やナラ林の更新などがあげられており、迅速な対応が期待されます。

予算額５６０万円

※ナラ枯れの被害。ナラ枯れはカシノナガキクイムシという虫が菌を媒介することによって起きる（林野庁ＨＰより）

新たな産業の担い手を育成する様々な事業です
第一次産業新規就業対策事業

宮古市では第一次産業の担い手育成のため、様々な政策を取っています。これら政策に新たにテコ入れされた部分があります。

まず、新規就農希望者の研修支援事業に、今まで月額５万円であった助成金が、月額12万５千円にアップします。また住居費の補助も月額上限２万円から３万円にアップとなり、より就農者に寄り添ったものとなります。

また、林業・養殖漁業・漁船漁業に就業を希望する方に対しても、同様の支援が受けられるようになります。

次に宮古市新規学卒者及びＵ・Ｉターン者等就業奨励金です。これは、新規学卒者（中卒・高卒・短大・大卒・専門学校等）及びＵ・Ｉターン者が宮古市内事業所に12ヶ月間以上継続雇用された場合、一回限り、10万円の交付を受けれるものです。

三つ目は宮古市高齢者雇用奨励金です。これは65歳以上の高齢者を12ヶ月以上継続雇用した場合、事業主に対して、高齢者一人に付き10万円を交付するものです。

最後は宮古市産業振興補助金です。これは今で50万円であった補助金上限額を、１００万円に上げるものです。

その他にも多様な支援策をおこなっており、これらの制度を活用し、一人でも多くの方にその恩恵を受けて頂ければと思います。

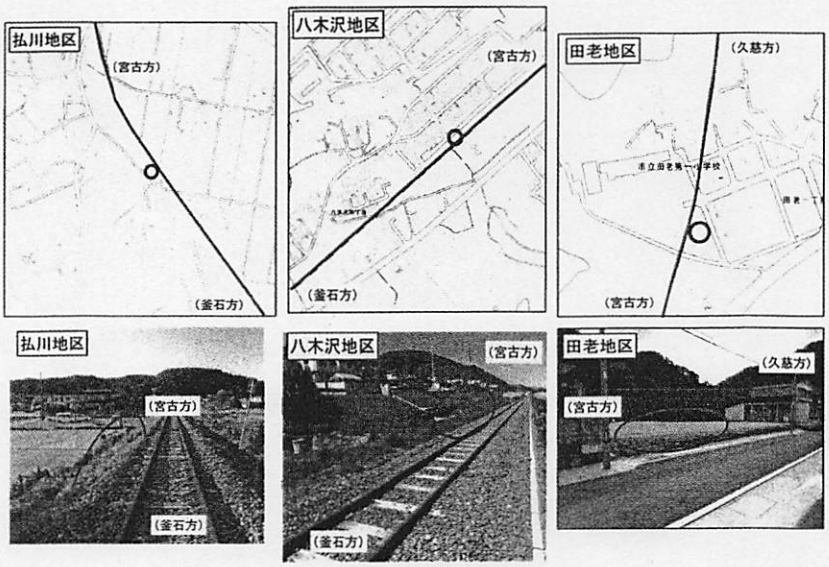
予算額１７６５万５千円

新駅の整備がついに始まります
新駅整備事業

三陸鉄道が宮古－釜石間の運行開始日を来年３月23日と発表しました。これにより、リアス線は一本の道となり久慈－盛間、１６３キロの第三セクター鉄道の国内最長路線が誕生することとなりました。

宮古市では新駅設置事業として、新田老駅（愛称・真崎の紺青）宮古短大駅（愛称・八木沢川のせせらぎ）払川駅（愛称・新たな希望）の３つの駅の整備を行います。

予算額５億円



※今回整備される新駅設置箇所。
左から払川駅、宮古短大駅、新田老駅。

課題解決に向けて

平成26年5月に宮古市議会に押し上げて頂いてから、至らぬ点も多々あったとは思いますが、私なりに全力で市政に取り組んでまいりました。

今まで経験したことのない事の連続で、毎日が勉強と修練の日々でしたが、常に皆さんと同じ目線、同じ気持、同じ立場で物事を考えてきました。

学童の家の規則と実際の運営に差が出てきていると、利用者の方からご相談を受けたときは、市の条例等を調べ、直接管理者や当局担当者と話をし、その運営方法を実態に即したものに変えて頂きました。また、地域からの要望・課題等も担当者と協議をすることで、解決することが出来ました。

今後宮古市は平成31年度の震災復興最終年度へ向けて、ますます復興工事やまちづくり事業が加速していきます。新しいまちのカタチがはっきりと見えて来ることで新たな課題や、人口減少・少子高齢化のより効果的な対策も必要となって来るでしょう。現在も「子ども・子育て幸せ基金事業」や「市営災害公営住宅の家賃対策」など、これからを見据えた事業を行う予定です。

私は議員というのは、市民のための支え役、縁の下の力持ちのような存在ではないかと考えています。市の様々な政策をチェックし、市民目線で捉え、住民がよりよく暮らしていける方法を探していく。

まだ36歳の若造ですが子どもたちの未来のためにも、青年だからこそ情熱を持って、青臭くても理想を掲げ可能性を信じ、自分らしく生きていける宮古市を皆さんとともに創り上げていくことが自分の使命だと考え、これからも励んでまいります。

※子どもたちと夢について語り合う